

平成30年 第2回 救急医学会男女共同参画推進特別委員会 議事録

日時：平成30年6月28日（木）10:00-12:00

場所：日本救急医学会事務所

出席：畝本 恭子

小澤 昌子

木田 佳子

七戸 康夫

長谷 敦子

並木 みずほ

番匠谷 友紀

本多 ゆみえ

赤星 昂己

担当理事：田中 裕

1. 前回議事録の確認

2. 働き方改革に関する委員会の進捗状況 委員より

- ・現在6月中、各病院40名ほどの医師の労務時間管理の実態調査をしている。制作した携帯アプリケーションを使用して行っている。各医師には女性も含まれている。
- ・その結果をもって7月11日に第2回委員会を行う予定である。

3. 第46回日本救急医学会総会 委員会企画 進捗状況

① パネルディスカッション

- ・今年是个々の発表なしにディスカッションをメインに行う方針
- ・パネリスト：働き方改革タスクフォース 松本先生
厚労省 石丸様
厚労省検討委員会 赤星先生
東京医療センター 菊野先生
男女参画推進委員会から木田（佳）先生

- ・どれだけ医師でなくてもいい仕事をどうするか。診療看護師、医療事務。我々の平日の休みが増えるとパートナーの労務軽減にもなる
- ・会場からも意見をもらう。アンサーパッドを使用する。聴衆参加型パネルディスカッション
- ・厚労省の石丸様には簡単なプレゼンテーションをしていただく。
- ・ディスカッション内容については、厚労省が発表した緊急取り組みの6つのカテゴリーの

中から数テーマ選び行う。

・松本先生には、働き方改革タスクフォースで行った労務管理、アンケートについてもお話していただく。

・タスクシフト：診療看護師の育成を行っている東京医療センターの菊野先生にパネリストとして参加していただき現状とご意見を伺う。

・日本救急看護協会の松月様→看護師側からの意見がきけるのではないかな？

→今回のパネルディスカッションでは時間的、テーマ的に難しいため今後話を伺う機会を設けてはどうか。

・日本医師会が女性医師にむけてアンケートを実施した：この結果が今後発表される？

・赤星先生から

日本医師会が医師側の見解をとりまとめ、厚労省に提出。これをもって厚労省がガイドラインの作成を目指している。労働時間をきめるが、医師の場合特別条項として症例をあげて、労働時間の上限をあげる方針。10-11月にはおおまかな指針がでるのではないかな。（救急医学会総会までにはある程度示せるものが出る可能性あり）初期・後期研修医については、労働性が高いため別機関を作る動きもある（アメリカのように）。

また国民への啓発に対する予算も検討されている。実際に本当に必要な人に啓発するにはどのような方策が必要か検討されている（救急車有料化など）。

☆まとめ☆

タイトル：

あと3年で規制適用？救急医の働き方改革—救急医療は対応できるのか？

座長：小倉先生（田中理事から依頼していただく）、畝本先生

パネリスト：石丸様、赤星先生、松本先生、菊野先生（畝本先生から依頼）、木田（佳）先生

〈ディスカッションテーマ〉

- ・医師の労働時間の適正化にむけた取り組み
- ・タスクシフティング
- ・国民に理解を求めるためにどうしたらいいかな？

(国としてここまでは最低限を提示)

※アンサーパッドの設問

長谷先生が案を作成. 働き方改革タスクフォースの内容も含めて

※抄録はなしの方向. 大卒の抄録を畝本先生が作成し, パネリストはポジションステートメントのみ記載.

The 6th “男性も入れる”女性救急医師ラウンジ 2018

ラウンジのミニ講演: 伊藤香先生, 角先生 (帰国してれば)

ポスター作成: 番匠谷先生

4. 次回開催予定

平成30年10月4日午前11時~13時